

東京ガス跡地、築地市場移すな!

8月3日、新日本婦人の会江東支部は、環境セミナー第二弾「豊洲・東京ガス跡地への築地市場移転を考える」を開催。日本科学者会議公害環境問題委員会佐藤克春氏を講師に迎え、7月26日の東京都の専門家会議の問題点を報告、44人が参加、移転反対の意見が出されました。



左から新婦人江東中村支部長、加藤事務局長。左円内が佐藤克春氏

恐るべき土壌・地下水の汚染

最初に開会挨拶にたった中村支部長は、今回の専門家会議の土壌・地下水汚染対策は「食の安全を求める上で重大な問題」とセミナーの趣旨をのべました。



以下に④建物建設地内の汚染物質を採取し、研究所の分析器で検査したところ、猛毒のシアン、ヒ素、鉛などが検出されました。猛毒物質に汚染されている場所に築地市場を移転することは許せません」と発言。



写真は7/12築地市場移転反対のデモ行進。大つき、あげ上、吉田の各氏と参加者

この日、講師の日本科学者会議公害環境問題委員会の佐藤克春氏は、専門家会議が築地市場の移転地としている東京ガス工場跡地の土壌・地下水の調査方法と汚染結果について「高濃度の有害物質が以下のように検出されている」と指摘。

氏はつづいて専門家会議が示した土壌・地下水汚染浄化の対策案を次の5点にわたって紹介。

①各街区の周辺部と建物を止水矢板で囲む②旧地盤から2.5mまで掘削し土壌を入れ替えさらに2.5mは盛り土する③換気当時より処理基準を超過した土壌を基準



築地移転問題は江東区議会第2回

定例会で全会派が本会議質問で取り上げました。

区は受け入れ方針撤回を

共産党区議団が区長に申し入れ

日本共産党区議団は同地の土壌汚染が明らかになって以来、汚染の再調査と食の安全の確保を求め、繰り返し本会議で質問。都議団や市場関係者など運動も進めてきました。

今回の調査結果を受け、区議団は、区長に「受け入れ方針の撤回」を緊急に申し入れました。

針の撤回」を緊急に申し入れました。本会議質問では、「都の調査や対策は不十分で汚染を完全に浄化することはできない」と「区は受け入れ方針を白紙撤回する」ことを求める意見書」案(全会一致が原則)を意見調整会議に提出すると、これに対し、「新たな観光名所となって総合的メリットは大きい」(自民)、「7月の報告を見守る」(公明)、「撤回までは求めないほうが良い」(民主)などの理由をつけて反対しました。

「絵に描いた餅」であり技術的にも困難、成功の可能性は低い。

識者の指摘

専門家会議の平田健三座長自身が「膨大な金をかければ別だが汚染地下水を浄化基準以下にすることは非常に困難」。(週刊金曜日)

日本環境学会会長・畑明郎氏も「深さ2m、面積40万㎡、80万立方メートルの汚染土壌は、産業廃棄物処分場に匹敵、汚染土壌の処理も困難」。「提案された対策案は

平和・くらし風土記

32

昔も今も、働く人の町・江東区 長谷川平蔵と石川島人足寄場

広大な干潟であった江東区の埋め立ては1596年(江戸時代)頃から、今の新大橋、常盤など深川北西部から始まった。

明暦の大火(1657年)後、幕府の大規模な都市計画により元木場が開発され、享保年間(1716~1736)には越中島などの開発が進められた。東京湾に面し、隅田川、小名木川など水運に恵まれた江東区は、産業として深川地域には木場、干鰯場、倉庫業、鋳物業、醤油業などが、亀戸、砂町地域は江戸近郊の野菜産地として発展した。当時、深川の店借率は82.5%、住民の8割強が自分の店を持ってない人たちだった。

生業は主に魚介類の棒振り、日雇い、船わたしなどだった。こうした生業には誰でも就きやすく、松平定信が老中首席(1787年~)時代には、農村崩壊・離村による無宿人が、苦しいが「農村で暮らすよりはまし」と、本所・深川に大量に流れこみ凶悪犯罪が多発した。このため、従来の佐渡の水替え人足、伊豆七島送りなどで江戸から追放する無宿人対策では対処できず、職業訓練をして無宿人を更正させる施設を検討、具体的に定信に建議したのは鬼平こと長谷川平蔵で、かれがヒントにしたのは深川茂森町にあった無宿養成所(1780年)だった(この施設は財政難と病死者、逃亡者の増大でわずか7年で閉鎖となった)。

平蔵は最初、運河に囲まれ逃亡防止の地形に恵まれた深川鶴歩町(現木場3丁目)に人足寄場を設けることを定信に建議したが、最終的に石川島に人足寄場が造られた。



いま無宿養成所や鶴歩町は木場公園となり、当時の痕跡を残すものはなにもない。しかし、当時仙台堀川、大横川にかかっていた要橋、亀久橋、茂森橋は昔の名前のまま現存しており、これらの橋や堀に佇んで見回せば、当時の風景は十分想像できる。

江東区は明治に入り、川沿いに紡績業が栄え、第一次世界大戦後は重工業が発展した。昭和に入り、工場再配置促進法(1972年)成立により工場移転が始まり、跡地に次々と巨大団地、マンションが建設され、まさしく働く人たちのベッドタウンとなっている。働く人たちの町・江東区の人々が歴史のうねりのなか、くらしと平和をまもるため、どのように行動し共同を広げたのかを見てゆきたい。



踊る5人の若者たち

クライマックスは平均年齢22才の5人の若者たち。ダンス専門学校出身のダンスボランティア「まほろば」が、「戦わなくていいんだよ」

核廃絶めざす若者の想い



原水禁2008年世界大会広島総会(8月4~6日)は、全国と世界各国から7500名の代表が参加して開催され、江東からは13名の青年を含む24名が代表として参加しました。

青年の多くが初めての原水禁世界大会参加で、その感想を紹介します。
「被爆者の方々の体験談を聞き、核の悲惨さをより深く学びました」
「全国から、世界からこんなにたくさんの方が平和を願っていることに驚き、行動していることに驚きました」
「被爆者が高齢にもかかわらず、自分の身に起こったことを話した生声に共感した」
「教科書などで教えてくれないことがたくさんあり、戦

争や被爆について知らせることが大事だと感じた」
「被爆者の体験談には、胸の奥が締め付けられました。そんなに辛い思いを聴けたことは貴重な体験だった」
「63年たったいまでも苦しんでいる人々がいることを忘れず、核兵器廃絶への願いを強く訴えていきます」
「このような悲惨な戦争を引き起こした原因・政治の動きにも注目してほしいと話され、今後自身自身が理解を深めていきたい」。



開会に先だち、宮永実行委員長作詞・作曲「ひまわり」を歌いあげました。

「このように悲しい戦争を引起こした原因・政治の動きにも注目してほしいと話され、今後自身自身が理解を深めていきたい」。

大会は「2010年のNPT(核不拡散条約)再検討会議にむけて核廃絶の世論を広げるために、新たな国際的共通の行動を提起しました」。

第4回「次代に継ぐ」平和のつどい 江東に平和文化の花開く

8月22日夜、砂町文化センターで実行委員会手づくりのつどいが、90人余の参加と多彩な出演者によって開催されました。

最初は紙芝居「おこり地蔵」。被爆少女に石の地蔵も涙泣(ていきゆう)する惨劇を大賞勝敏さんが熱演します。続いて軍需産業IHIの石播岩働者合唱団が、「見上げてごらん夜の星を」「勝利の日まで」を歌いあげました。
原水禁大会三年連続参加の赤羽目区議とともに登壇した女性代表は、被爆の実相にふれた江東の13名の青年に、核廃絶の未来を確信したと語りました。
新婦人の寸劇「ご隠居さんの憲法」はさり気ないユーモアで笑いを誘いながら、九条前文を語り無数の九条の会を、と訴えます。

9月の行事案内

- 7日(日) 13時 亀戸事件85周年追悼会、亀戸4丁目赤門浄心寺
- 9日(火) 18時30分 亀戸事件と多言二学習会
- 13日(土) 13時30分 カメリアプラザ
- 13日(土) 13時30分 江東うたごえ交流会
- 古石場文化センター
- 16日(火) 18時 憲法集会準備会
- 土建江東支部会館
- 20日(日) 14時 障害者支援「区民の集い」墨東養護学校
- 21日(日) 14時 江東社保学校、東京都現代美術館講堂
- 27日(土) 19時 江東区労連青年部第8回定期総会
- 江東区文化センター

きになっちゃえばいいんだよ」とクリスタルチュードレンのリズムにのって、舞台狭しと踊る熱気に、参加者の青年の想いがかきたたられ、アンコールの手拍子が湧きおこりました。

最後は保育士のサークル「しろつめくさ」の「ピースサイン」の歌にあわせて踊り、石播合唱団の歌う「9条誓約」。

炭坑節のメロディで、出演者と会場が一体となって、江東から平和の火を灯そうと、益隔りの輪ができました。